



ヤマツツジの再生を願って!!



ヤマツツジ

デジタル化が進む令和の世、若者の間では『昭和レトロブーム』が続いているのだそうです。〇〇横町、使い捨てカメラ、レコード、カセットテープなどなど、チョット手間暇かかるけれど人間くさく懐かしいアナログの世界です。昭和は1926(昭和1)～1989(昭和64)年まで続いた元号史上最長の時代です。今や日本人の7割は昭和生まれだそうです。元号と西暦が混在する中で、昭和の変換キーマンバーは、+25です。例えば、昭和45年は、45 + 25 = 70で、1970年です。(ちなみに、明治+67、大正+11、平成+88、令和+18です。)これを覚えておくと便利な時があります。



煙出し付き茅葺き屋根

昭和後期に青少年期を送った小生は、八幡様(神社)が登校路でした。八幡坂の石段を登り、木々に覆われた境内を抜けるとテニスコート、そして木造平屋の南校舎と北校舎がありました。体育館はなく、今のような金網フェンスもありませんから、とても開放的です。校舎横には大きな銀杏、校庭にはプラタナスやポプラの大樹もありました。中学校周辺の原(はら)は、一面桑畑です。古墳跡もまだ残っていました。雑木林の中に原新田、その遙か先に楊井がありました。下校路は、観音堂から小学校前へ、ここで村岡組、万吉組、平塚組の三方に分かれます。『となりのトトロ』のような米麦、養蚕の農業を中心とする田舎風景は、1975(昭和50)年頃まで見られました。茅葺(かやぶ)き屋根の農家、ホタルが乱舞する小川のポイント、ドジョウやカラスガイ、雑木林に自生するヤマツツジやヤマユリなどなど、今はもう見られません。八幡様の冬景色は、コナラなどが落葉し、樹間から里の家々がよく見えました。今は、篠やシュロ・アオキ・カシなどの常緑樹が多くなり、里の風景も見えなくなっています。このような変化は、日本中の田舎で見られます。時は、1980年代の狂乱のバブル、そして1990年代のバブル崩壊、続く「失われた30年」=日本の「衰退」の時代背景です。



樹間から里家が見える八幡様

里山の12月の活動は、12月10日(日)に行われました。春のような暖かな青空の下、自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、個人ボランティアなど20数名程の参加者が、八幡神社北斜面の間伐と下草刈りを行いました。八幡神社からは里の風景がチラチラと見られます。風と光が通るようになった林には、3月、ヤマツツジを植える予定です。新緑に映えるオレンジの花、かつて見た雑木林の風景の再生を願って。皆様、お疲れ様でした。よいお年をお迎えください。この回覧の印刷は、中学校のご厚意を受けています。いつも、ありがとうございます。



写真担当
立正大学
地球にやさしい会



斜面の作業



女性も大活躍



下草刈り

次回活動日(1月は休会)

2月11日(日) 9:00~11:00(雨天中止)

随時参加者募集! 作業に適した服装で、吉中にお集まりください。